

おおみぞ 大溝

おとめがいけ
乙女ヶ池と水路がめぐる城下町

高島市大溝

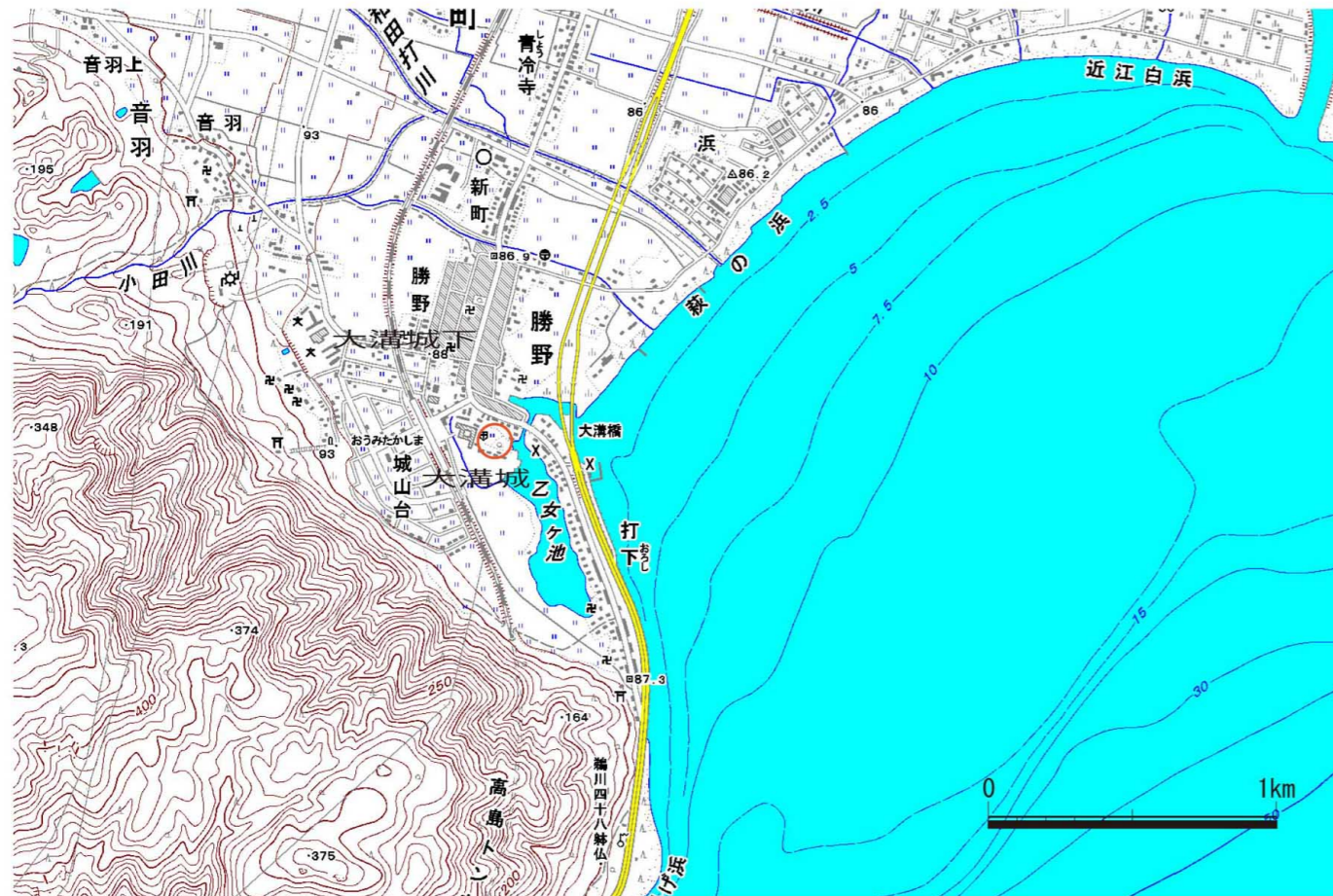
周辺の みどころ

大溝城の背後の標高約379m高い山が、大溝古城とも呼ばれる 打下城である。打下城は清水山城の出城、もしくは永正2年（1505）に高島玄蕃允が築城したとか、元龜年間には浅井氏か朝倉氏によって改修されたとか、林与次左衛門の城として伝えられているが定かではない。打下城へは日吉神社横から延びる山道を登り、防砂ダムから山道を登る。城は中郭、南郭部と北郭部に分かれており、虎口や櫓台、石積みを見ることが出来る。

また、城からさらに奥に登ると「高島七ヶ寺」のひとつ長法寺跡を見ることが出来る。寺は日吉神社が嘉祥2年（849）に坂本から山王権現を勧進して創建されたとされる。その後信長に焼き討ちされ現在にいたり、本堂や坊跡、石垣や石畳などの遺構を見ることが出来る。



打下城の石垣



水路がめぐる大溝城下町

大溝城は、織田信長が琵琶湖の制海権の掌握を目的に、琵琶湖の四方に築いた4つの城郭のひとつである。南に元龜2年（1571）に明智光秀に命じた坂本城、北に天正2年（1574）に羽柴秀吉に命じた長浜城、そして東には自らの居城安土城を天正4年（1576）に築き、築城政策の仕上げとして、天正6年（1578）に甥の津田信澄に命じて大溝城を築いた。いずれの城も琵琶湖や内湖を自然の要害としたものである。

特に、琵琶湖から砂堆で仕切られ出来た乙女ヶ池を天然の湊とし、その北西端に本丸や天主台を突出させた大溝城は、「湖城」と呼ぶにふさわしい景観として見ることができる。



[アクセス]

●JR湖西線新旭駅下車徒歩15分。

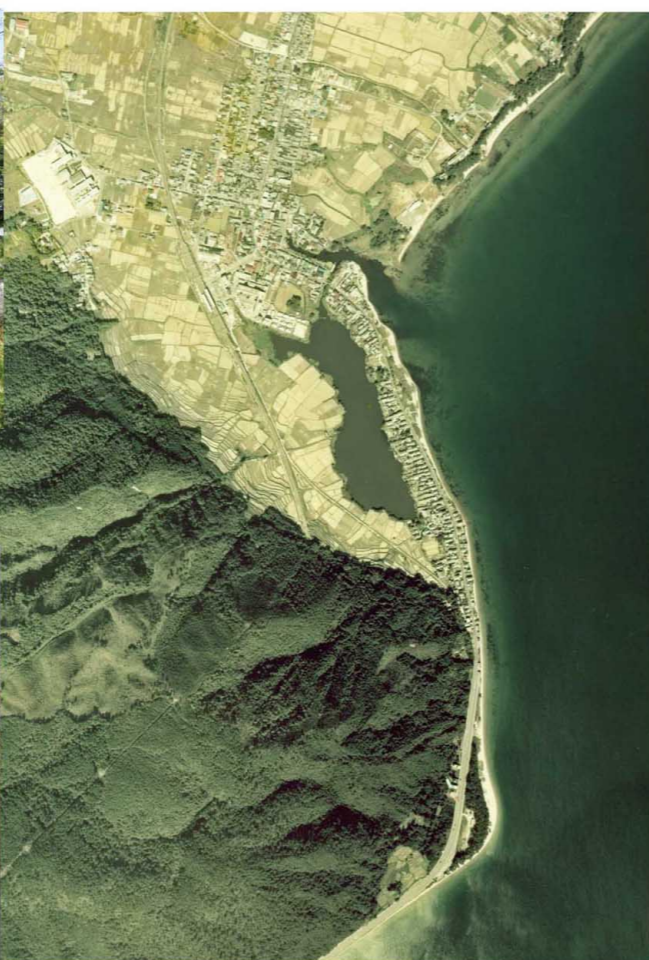
[もっと詳しく知りたいひとへの案内]

(関連文献/関連施設)

- 生水の郷委員会 TEL 0740-25-6566
- 高島市教育委員会 TEL 0740-32-4467



大溝城跡石垣
(びわこビジターズビューロー 提供)



乙女ヶ池と大溝城



勝野の街並み

大溝-乙女ヶ池と水路がめぐる城下町-

所在地 高島市勝野

勝野と勝野津

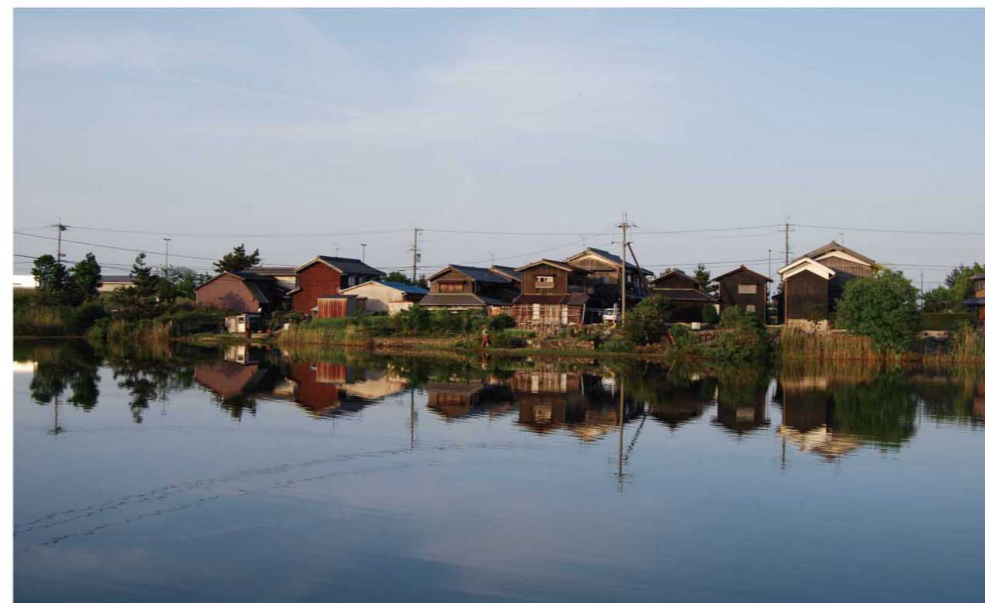
大溝は、壬申の乱で大海人皇子が、ここで勝ち鬨を上げたから「勝野」と呼ばれていたとの伝承があり、古代には「勝野」「勝野鬼江」「勝野浜」「勝野津」と呼ばれていた。

「続日本紀」によると天平宝字8年(764)、恵美押勝(藤原仲麻呂)の乱で仲麻呂が、追討軍に敗れ「勝野鬼江」で首をはねられたことが記されている。また、「延喜式」によると若狭国からの物資が勝野津に集積され、大津へと回漕されるターミナル湊であったことがわかる。いずれも古代からこの地が交通の要衝であったことを物語っている。

大溝城の築城

中世この一円は高島七頭の頭領高島氏が支

配していたが、織田信長による「元亀争乱」や比叡山延暦寺焼き討ちの結果、信長の支配下に入った。当時、佐和山城主であった磯野員昌は、元亀2年(1571)に織田信長に攻められて降参し、殺されることなくこの高島の地を与えられた。当初は新庄城(高島市新旭町)を居城としていたが跡継ぎがなかったため、信長は天正2年(1574)、弟信行の子で元服し津田を名乗っていた信澄を養子に迎えさせた。そして、天正4年(1576)に員昌は隠居となり、高島一郡の支配は信澄が行うようになった。事実上、養子縁組による家督の乗っ取りであった。天正6年(1578)、信長の思うがままに支配される形となった員昌は、その扱いに耐えきれなくなり、信長に逆らい勘気をこうむる形で所領を没収さ



打下の集落



高島の古式水道



びれっじ2号店

れ高野山で出家した。信澄はそのまま領地を引き継ぎ、新庄城、打下城を廃城し、あらたに大溝城を築いたのである。

大溝城と城下町

城は、琵琶湖から砂堆で仕切られた乙女ヶ池の内湖の中に築かれており、本丸は乙女ヶ池の北端に突出させるように築かれ、周囲にそのまま水を引き入れ外堀としていた。本丸は方形で四方を内堀で囲み、三方に隅櫓、南東隅に天主が建てられていた。また、本丸の周囲には侍屋敷が配置された。いずれも現在は、水田化と市街化が進み、天主台の石垣だけが当時の面影を偲ばせている。天正10年(1582)6月5日の本能寺の変により、信澄は、明智方と見られ大坂城二の丸千貫櫓において信孝と丹羽長秀に謀られて自害させられてしまう。城は信澄の死後も、

豊臣段階においても戦略的重要拠点であったことには変わり無く、丹羽長秀、加藤光泰、生駒正親、京極高次と有能な城主が配された。

江戸時代以降の大溝

元和5年(1619)、京極氏に代わり分部光信が伊勢上野城から二万石で入封した。城は元和一国一城令により三の丸を残しすべて破却されて陣屋の扱いとなる。以後、分部氏は、三の丸に陣屋を構え十代を経て明治に至った。城下には勝野打下から続く古代からの街道が本丸をめぐる町屋部をとおり、現在、本丸の北方の水路を中心としたたんざくちわり地割や城下町景観は、信澄段階から形成されたものと考えられている。また町内には陣屋遺構の市指定文化財「大溝陣屋総門」を見ることができる。